2025.2.12 遊びの中で自然と数や長さを触れる

最近の雪遊び、ソリ滑りやかまくら、雪合戦、雪だるま作り、雪ダイブなど子供たちは全身を使い、雪の面白さに触れながら、雪遊びを楽しんでいます。
昨日、教員はイグルーのような雪の家を作ってもいいなと思い、コンテナを用意しておきました。
年長の子供たちは、さっそく見つけると、「面白そう！」と雪を箱の中に入れていきます。そして固めてひっくり返すと四角い雪の塊が。「雪レンガだ！！！」と子供たちは大喜び。
そして、「雪の家をつくろう！」とどんどん雪レンガを作り始めます。
雪レンガが一段、二段、三段と増えて壁ができ始めてきたころ、ある子が「もっと上に積み重ねるとどうなるんだろう？やってみようよ！」と言い出します。
そこにいた子たちも賛同し、一つの雪レンガの上にひたすら積み重ね始めます。
「そっとのせてよ！こわれてまう！」
「５段無理かな？重すぎるんじゃない？」と子供たち。でも雪レンガの強度は子供たちの想像以上で、8 段まで積み重なっていきます。
すると、「もうすこしで僕の身長まで届きそう！」「あと 2 個雪レンガをのせたら届きそうじゃない？」
子供たちによる長さ比べが始まります。
積み重ねながら、「こっちは三個、だいぶん差ができてきたよ！」横にある三個の雪レンガと高さの違いを言う子もいます。
そして、ついに 10 個。一人一人雪レンガタワーと背比べを始めました。
「もう一個のせてみる」「さすがに無理じゃない？」「だって斜めになってきたよ！」「いや、いけるいける」
子供たちのやりとり、試行錯誤、葛藤がまた素敵です。そしてついに 11 個。
背が一番高い男の子は「これに雪玉一個のせたら僕と一緒ぐらいかな？」とその上に雪玉をちょんとのせていました。

その横で、もう少し大きなコンテナで雪レンガを作っている子もいました。
「これも使えるかな？」というと「それは大きい雪レンガだから、小さいレンガの上にのせると崩れちゃうよ！一番下だといいかもね」と子供たち。大きさの特性を掴んでいきます。
そして、大きな雪レンガができると、「これ雪机だね！」とそこの横に座り始める子もいました。

保育室ではトランプで七並べや神経衰弱をして遊ぶ子たち、遊戯室ではサッカーの得点をかく子たち。紙飛行機の飛んだ距離を競う子供たちなどいろいろな場所で、子供たちなりに文字や数字、そして数や長さ、重さの概念に触れていることを改めて感じます。そして大切なのが、遊びを通してその概念の面白さを味わっていることではないでしょうか。
遊びながら気付く。さらに仲間同士の気付きやつぶやきが重なり合うことでより深くなる。もっとしたくなる。次へのアイデアが浮かぶ。
そのような姿を大切に、身の回りの世界の面白さを子供たちとともにこれからも発掘していきたいです。